

静岡県知事定例会見(6月10日)での知事発言に関する事実関係の整理

	6月10日静岡県知事会見における知事発言(※) (※)鉄道局にて文字起こし。発言の順番については鉄道局にて編集。	国土交通省が認識している事実
1	国交省で約束を破る形で有識者会議が開かれている。	・静岡県と協議を重ねた上で会議を開催している。
2	国で有識者会議をすることとなったが、当初は談合で問題となっている大成建設の監査役を座長・委員にする考えがあった。さすがに世論に押されて、ふさわしくないということで下ろされた。その時の態度が潔く無かった。江口技術審議官の恩師であるから、弁護された。弁護の仕方は恩師を尊敬しているという念があふれており感動的であったが、中立公正性からは逸脱していた。	・当該委員候補については、長年にわたりリニア技術の審議に関わってこられたこと、数多くの国土交通省の審議会等の委員を務められたこと等を総合的に勘案し、幅広い見識をお持ちであることから委員候補にあげさせて頂いた。 ・国土交通省としては中立公正性にも問題はないと判断していたが、静岡県のご意向を踏まえて撤回させて頂いたものである。 ・委員の選定にあたり、江口技術審議官の恩師であることは関係は無い。
3	国交省は議事録の公開をもって全面公開とするというが、議事録は国交省が作るのではこれは編集されている。全面公開ではない。それをもって全面公開と言い張っている責任者がいる。こういった虚言をしていることが横行している。改めようとしな。約束を破ることは公人としてあってはならない。大臣には厳しくご指導をお願いしたい。	・議事録については、事務局にて作成し、委員の確認を得た上で公表している。 ・全面公開については、報道関係者の傍聴、会議後の記者ブリーフィング、議事録の速やかな開示により、透明性を確保することで、会議の全面公開との要件は満たしていると考えている。
4	国交省の役人は電話で社長に対して、相当無礼なことを言っただけ。指導とは違う。会議は国交省に委ねられているものであり、そこでの発言がおかしいと、すべての責任の社長に押しつけた。	・そのような事実は無い。
5	江口技術審議官は県の学者は当事者だろうと暴言を吐かれた。私からしたら向こうが準備した有識者会議の委員も一部も当事者だと思う。	・暴言を吐いた事実は無い。また、有識者会議の委員は静岡県とも調整の上で選定している。
6	水嶋さんから私に宛てた手紙が来ている。それに私は抗議をしたが、無視された。会議の全面公開を求めるも無視された。無視しているのは水嶋鉄道局長であり、国交省という抽象的なアノニマスな、名前が特定されない人物ではない。大臣は局長に任せているとおっしゃっている、任せるものですか、任せられるものなら大臣は必要ないだろう。国交省と県のやり取り、抗議が全部赤羽大臣に上がっているのか。抗議文を有識者の先生に回覧してくれと言っているが返事が無い。無視されている。ご自身の言い訳だけが連ねられ公表されている。これは組織がやっているというよりも個人がやっているということ。人が会議を動かしている、機械が動かしているわけではない。	・5月22日付けの知事からの手紙に対しては、5月26日付けで回答している。 ・抗議文などについては、有識者会議の委員にも6月2日に情報提供している。 ・静岡県とのやりとりについては、国土交通大臣まで適宜報告している。